

日本科学者会議  
京都支部ニュース 11月号 No.345

2012年11月13日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : kyoto\_kagakusha\_3@yahogroups.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名: 日本科学者会議京都支部 口座番号: 01050-6-18166

目次

- ◆ 支部幹事会の呼びかけ「大飯原発差し止め訴訟の原告になろう」……………2
- ◆ 48期第2回常任幹事会(10/20,21)の報告……………2
- ◆ 48期第2回近畿地区協議会(10/30)の報告……………4
- 「JSA 若手夏の学校 in 岡山」(9/20,21)の参加報告……………5
- 『日本の科学者』10月読書会(10/19)「科学と教育の結びつき」……………7
- 個人懇秋の勉強会「橋下・維新の会を考える」(10/25)の報告 + 若者の情報源……………9
- 『日本の科学者』近畿サポーター会議(10/28)の報告……………10
- 関西技術者研究者懇談会11月例会(11/4)「自然エネルギーへの転換」の報告……………11
- 読書会・フォーラム・研究会などの案内……………12
  - ・『日本の科学者』読書会11月例会(11/16)「大学改革」特集
  - ・科学・技術京都フォーラム(11/24)「原発そして尖閣」
  - ・関西技術者研究者懇談会12月例会(12/2)「小水力発電」
  - ・「学校統廃合と小中一貫校問題」全国交流集会(12/9)
  - ・「人体の不思議展」は何だったのか(12/22)
  - ・支部の新研究会「社会体制研究会」(12/22)
- 投稿: 住民参加のまちづくりとは(1)……………14
- ◆ 支部幹事会だより……………15
- 19総学で池内 了氏の講演を聞いて(再掲)……………16
- ◆ 編集後記……………17
- JSA 近畿地区の催し物案内・「JSA 近畿 No. 49.40」……………18
- 挟み込み付録: 大飯原発差し止め訴訟「原告参加申込方法」

11.24 科学・技術京都フォーラム「原発そして尖閣」

11月24日(土) 13:00~17:00 京都工芸繊維大学 総合研究棟

## 京都支部幹事会からの呼びかけ 「大飯原発差し止め訴訟の原告になりましょう」

このたび、すべての原発をなくす第一歩としてまず大飯原発を止める訴訟が提起されました。原発をなくしたいと願う人は誰でも原告になれます。会員のみなさま、ぜひ原告になりましょう。原告参加費用は5,000円（訴状に添付する印紙代、コピー代）です。

参加申し込みについては別添の「原告参加申込方法」をご覧ください。不明な点がありましたら宗川事務局長(sokawa@snr.kit.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

なお、安斎育郎さん、広原盛明さん、望田幸男さん、富田道男さん、宮本憲一さん（以上、京都支部）、井戸謙一さん（滋賀支部）などJSA会員が呼びかけ人になっています。

## 48期第2回常任幹事会（10/20,21）の報告

常任幹事・富田道男

さる10月20日（土）の午後から21日（日）の午後まで、標記の会議が東京で開かれ、48期前半の活動の総括と後半に向けての方針の具体化の検討が行われた。

最初に会員数など組織の現状報告があり、次いで48期前半の活動の総括と後半に向けての方針の具体化の検討が、21日の午後3時過ぎまで行われた。報告と討論は、20日に研究活動、社会的活動、国際活動及び学術体制関連の活動、そして翌日の午前中に組織強化活動、総務財政関連、JSA活動活性化募金、『日本の科学者』及び出版活動について、それぞれの項目に別紙資料を添えて行われた。21日午前の最後に常任幹事会を研究基金常任準備委員会に切り替えて、任期満了に伴う2012年度研究助成審査委員の補充承認と応募状況の報告が行われた。午後には、JSA50周年に向けての提案のあと、総合討論が1時間あまり行われ、第44回定期大会（2013年5月25、26日）の準備予定の提案が行われた後、4件の決議を採択して散会した。

議論の中から、特に重要と思われるいくつかの事項について報告する。

会員数は、10月5日時点で9月より6人増であり、目標には、あと300名の実増が必要となるので、年内に100名増を目指すこととした。

組織強化の問題では、会員名簿の作成が議論された。民間企業所属の会員を抱える支部では、反対意見が強いとの予想から、全国へ名前を出してもいい人だけの内部資料としての名簿を作成してはどうか、という意見が多かった。会員の交流を図り、活動活性化のために全国事務局に内部資料として名簿を集中させることが重要であるとの認識は共有できた。また、機関紙『日本の科学者』の読者を拡大する取り組みを組織的に進めることになった。資料として利用できる記事が多く掲載されていることをセールスポイントにして各支部で拡大に取り組む。1部の拡大により支部と全国の財政に合わせて月約400円の実収入があり、読者に入会を勧めやすくなるという効果が期待できる。

財政活動については、2013年5月で終了するJSA募金や組織維持引当金の払底する2014年度以後を展望して、収支の抜本の見直

しが避けられないことが説明された。現在の  
実支出額は、現員より 1,300 人多い会員数の  
年会費相当額であり、2005 年度から 2008 年  
度まで条件付きで積み立てた組織維持引当金  
を取り崩してやりくりしてきた。しかし限界  
なので、事務所の移転が必要になるかも知れ  
ないことなど、今後 5 年間程度を見越して、  
対応の必要な事項が 4 件挙げられた。その中  
に、維持拠金制度（仮）の創設が提起された。  
現行の JSA 募金に 2 回以上応募した人が 300  
名ほどあるので、年 1 万円寄付してくれる人  
を 200 人ほど募り、現行支出規模の一定程度  
の縮減を図りながら、活動規模の維持を図る  
という提起であった。活動を通じてしか会員  
増は図れないという川崎代表幹事の発言があ  
った。

19 総学実行委員会による総括試案が報告  
された。報告・講演は、基調講演・特別講演  
のほかに、29 分科会で 165 件行われ、ポス  
ターセッションには 43 件の参加があった。  
登録参加者は、会員の事前登録 217 人、当日  
登録 81 人、1 日券 7 人の計 305 人であり、  
非会員登録者 45 人を加えて、登録参加者総  
数は 443 人であった。また 3 日間の参加延べ  
人数は約 1,000 人であった。成功の要因とし  
て、実行委員会を支えた岡山支部幹事会並び  
に 17, 18 総学の各事務局長などの参加によ  
り、総学の経験が継承できたことを挙げてい  
た。また、岡山大学と岡山工学振興会との協  
賛としたことや県・市、山陽新聞など地元の  
様々な団体の後援を受けたことも大きな要因  
であった。1 部 2,000 円の「19 総学予稿集」  
の普及を全国的に取り組んでほしいとの要望  
があった。

前大会でも議論のあった研究委員会の在

り方に対する第 3 次事務局改革案が了承され、  
次回大会議案書には新たに募集した研究委員  
会が提案される。第 3 次改革案の特徴として、  
研究と運動の接点及び世代間交流の重視、設  
置期間 3 年制（現行は 2 年）、幹事を 3～5 名  
において民主的運営を図ることなどがあげられ  
る。第 3 次改革案は、既存の研究委員会宛に  
第 1 次、2 次事務局案が提案され、その意見  
に基づいて作成され、常任幹事会の前に各支  
部宛に提案され、京都支部幹事会においても  
議論されたものである。常任幹事会での改革  
案の議論の中で、第 31 回大会（1996 年 5 月  
26 日）において「研究委員会設置要綱」が決  
定されているが、これが新しい会員には知る  
術のない状況であることが判明した。その後  
事務局で検討した結果、JSA 全国のホームペ  
ージの会員のページにこれを掲載することに  
なったとのことである。11 月 6 日付けで全国  
の会員のページ

(<http://www.jsa.gr.jp/member/index.html>)  
の {文書} 項目の {事務関係} に掲載されて  
いる。

#### <付記> 第 44 回定期大会の準備日程

2013 年 2 月中旬、議案草稿を支部と幹事宛  
に発送

3 月 2, 3 日、常任幹事会で議案の確定

4 月 10 日 全会員に発送

5 月 25 日（土）午前 幹事会において  
大会提出議案の確定

2013 年 5 月 25 日（土）、26 日（日）

第 44 回定期大会

## 48 期第 2 回近畿地区協議会 (10/30) の報告

常任幹事・富田道男

標記の会議が 2012 年 10 月 30 日 (火) 18:00 から 20:30 まで、京都支部事務所で開かれた。出席者は、小島 (滋賀支部)、宗川 (京都支部)、佐藤 (奈良支部)、後藤 (兵庫支部、廣森の代理)、(欠席:大阪支部、和歌山支部) と常任幹事 上野、後藤、富田であった。6 支部のうち 4 支部の事務局長が出席されたので、申し合わせにより地区協議会は成立した。

### I. 今期これまでの地区の取り組みの総括

1) 原水爆禁止 2012 年世界大会・科学者集会が滋賀支部担当で開催されることになり、第 1 回現地実行委員会が 2012 年 5 月 13 日に行われ、これを受けて今期第 1 回の地区協議会 (2012 年 6 月 27 日) において、地区として支援することが申し合わされた。現地実行委員会、特に滋賀支部幹事の努力により、8 月 1 日の集会は、140 人席の会場に総勢 176 人の参加を得て、立ち席の出る盛会であった。

最終の現地実行委員会 (9/22) の議事録を参照して、①謝礼、会場費等の差引後の余剰金は滋賀支部が管理して、関連するアフター企画などに有効に活用すること、②反省点を踏まえて全国事務局への 4 項目の申し入れをしたこと、③アフター企画の提案「原発ゼロ JSA 討論集会」を近畿地区での開催として検討していくこと、などを確認した。中でも②の 4 項目の申し入れについて、全国常任幹事から科学者集会は科学者会議独自の取り組みであることの理解が、担当の全国常任幹事に徹底していなかったことによる混乱があったとの説明があった。いずれにしても科学者集会と原水協との関係については、全ての会員

に明確な説明が必要であることを確認した。

2) 第 33 回原子力発電問題全国シンポジウム

日本科学者会議エネルギー・原子力発電問題研究委員会並びに第 33 回原子力発電問題シンポジウム実行委員会主催のシンポジウムが今年は、福井支部を中心に石川、京都、大阪の 3 支部が加わる現地実行委員会により開催された。第 1 回近畿地区協議会において、現地実行委員会に加わる近畿地区担当常任幹事から近畿地区としてもシンポジウムの成功のための取り組みの訴えがあり、ポスター配布など宣伝に取り組んだ。総括会議となった第 8 回現地実行委員会 (9/3) の議事録を参照して、意見交換を行った。

福井支部幹事会の努力により、また大飯原発再稼働直後という時期にふさわしいテーマ「福島原発災害の教訓をどう生かすか」の設定により、8 月 25、26 日のシンポジウムは、福井県内から 115 名、県外から 86 名、マスコミ取材 6 名の参加を得て、盛会であった。しかし、ポスターの分かりにくさやチケット前売りの苦勞、または地元敦賀の原発の報告がもっとほしかった等、他地域での開催例の踏襲による地域不適合は、当初から懸念されたことであった。さらに基調講演で触れられた「将来安全な原発による核エネルギーを必要とする意見」と「破局的災害をもたらすので原発はすべて停止・廃炉とすべきという意見」のうち、JSA は後者を基本的立場とすることを決めているが、このことを主催者のエネルギー・原子力発電問題研究委員会が正確に把握していない問題に関しての現地実行委

員会の議論について、意見の交換をした。

3) 若手夏の学校 (19 総学) 参加者に対する支援について

近畿地区からの若手参加者は、9名であり、参加支援一人 2,000 円を地区財政より支給することにしていたので、京都支部 6 名 (新入会 4 名) 分 12,000 円、兵庫支部 2 名 (新入会 1 名) 分 4,000 円はそれぞれの支部会計が立替えてすでに支給済である。大阪支部 1 名分 2,000 円を合わせて、合計 18,000 円を地区財政から支出することを確認した。

4) 地区財政状況についての報告は、担当の大阪支部事務局長が急な校務のため欠席されたので、中止とした。

## II. 科学者集会のポスト企画「原発ゼロ JSA

## 「討論集会」の提起

前掲の I - 1) の③の申し合わせにより、標記討論集会の実行委員会を設置することにした。実行委員会開催の日時を調整した結果、とりあえず第 1 回実行委員会を 11 月 15 日 (木) 18 時より京都支部事務所で開き、実行委員会体制と日程など当面の必要事項を決めることとした。

## III. 48 期第 2 回常任幹事会 (10 月 20, 21 日) の議事の中から

資料として常任幹事会の議事次第のコピーおよび富田常任幹事作成の報告書を配布し、議論の中から重要と思われることをいくつか報告し、討論して確認した。内容については別記事「48 期第 2 回常任幹事会の報告」参照。

## 「JSA 若手夏の学校 2012 in 岡山」の参加感想文 2 件

### 1. 社会運動と院生・学部生

京大院生 T・K

さる 9 月 14 日 (金) ~16 日 (日) にかけて、2012 年度の JSA 若手「夏の学校」が岡山にて開催されました。今回は第 19 回 JSA 総合学術研究集会との併催とし、両者の相乗効果を狙って企画を練り上げました。結果的に、総学参加者からの飛び入りを含めて、全国 8 支部から合計 33 名の参加者が集まりました。

二年ぶりに近畿地区が担当ということで、これまで関わってきた博士課程院生から、より若手へと活動の中心をシフトすべく、修士課程生などを中核とした実行委員体制を組む運びとなりました。オーバードクターである私自身、今回はアドバイザーとして関わることとなりました。その準備過程や当日に感じ

たことを、ごく簡単にですが、ご報告させていただきます。

一つ目は、準備過程に感じた若手の問題意識についてです。今年度の「夏の学校」は、昨年の震災と原発事故をきっかけとして広がった社会運動に焦点を当て、「東日本大震災後の私たちの学問と社会運動」というテーマを設定しました。関西の若手は、この間、関西若手研究会という名称で、「若者が社会運動の主体となること」について継続して研究を行ってきました。その時念頭に置かれていた現実には、貧困問題や就活問題など、若者の参加する社会運動の萌芽が散見されつつも、広く社会全体に認知されるに至っていない、というものでした。しかし、脱原発運動や京都市長選への関与など、昨年以降多くの若者が何らかの社会運動にコミットするようになって

きています。こうした現実を捉え直し、自分たちは研究者として何ができるか、なにを成すべきかを考えたい、という想いがテーマ設定の背景にありました。若手の研究環境は決して恵まれたものではありません。その中において、社会に対して関わりたい、関わらねばならないと考える若手が出てきていることに、同様の問題意識を持つ者として大変励まされた次第です。

二つ目は、当日の参加者の中に、学生が含まれていたことです。東京・関西からだけでなく、知り合いの教員からの紹介で総学に参加した、という学生が飛び入りで参加してくれました。印象的だったのは、沖縄に関係している学生が多かったことです。当日、参加してくれた学生の1人は、沖縄から本土に出てきて、大学生の社会問題に対する関心の低さに驚いたと言います。また、オスプレイ問題が正念場を迎えつつあった中で、そうした問題を学び議論する場所がないのが残念だとも述べていました。今回取り上げた運動そのものは、沖縄の問題とは別でしたが、それでもそう歳の離れていない院生が、社会問題に関わっている経験やその意義について活発に議論している姿は、彼らにとって刺激になったようです。就活の激化など、学生同士の学びの機会が減少している中で、今後は彼らも含めた研究会の開催や情報交流を促進していきたいと強く感じた出来事でした。

以上がごく簡単にですが、企画に関わった中で考えこととなります。今回、実行委員会として参加した修士院生などは、関西の若手の研究会に参加する機会が少なく、「夏の学校」が初めてのJSA活動であったという人たちです。彼らにとって、今回の企画がどのように受け止められたのか、また参加した進学

希望の学生たちにとってはどうだったのか、といった点を丁寧に総括することで、今後の活動をよりいっそう発展させていきたいと思っています。

最後になりますが、企画をご支援頂きました方々に、改めて御礼申し上げます。

## 2. 同志社大院生R・O

初めて日本科学者会議の総合学術研究集会と「夏の学校」とに参加した、修士課程の者です。夏の集会と学校に参加してよかったと思えたことが3点あるので、それを述べます。

よかったことの一つ目は、池内了先生の講演「持続可能な社会への変革をともに」を聞き、トランスサイエンスという概念を知れたこと。(トランスサイエンスとは、科学の見地からは判断できない、倫理を含む領域をさす。)先生は原発をトランスサイエンスの視点から考える必要があるとおっしゃっていた。すなわち、原発は安全性や経済的な視点だけでなく、そこに住む人々や今後生まれてくる子孫のこと、他の生命のこと、すべてを含めて人間の限界を理解し、判断する必要がある問題だということ。倫理的に考えるならば、あつてはならないものだということだ。原発はいらないと言うと、いろんな人がいろんな観点から、原発は必要だと言ってくる。そんな人たちに、なぜ自分は原発に反対なのかを説明できる視点が得れたことは本当に嬉しい。

二つ目は、分野を超えて、科学のあり方を真剣に考えている科学者が日本中にいると知れたこと。

普通に研究していたら身近な分野の研究者としか接する機会がないけど、夏の集会・合宿では、理系の人(細かいことは分からない)や福祉を研究している人などと話をする

ことができた。分野違えど話した人はそれぞれに、今の社会のあり方に疑問を感じ、それぞれのフィールドでがんばっていることを知れた。また、お昼を食べようと思って入った部屋が分科会の部屋だったらしく、図らずも地震学についての話を聞くことができた。火山の石を拾ってきて分析し、その火山が何時どのように噴火するのかを予測するらしい。そしてそれは火山大国である日本においてとても重要な研究だと知った。しかし今は「仕分け」の影響などで地震研究は縮小されているようだ。必要な研究がおろそかにされ、アカデミズムの細分化がどんどん進んでいく中で、分野を超えて同じ社会について話ができたとや聞けたことは有意義だったし、今後

も必要なことだと思った。今回は初めての参加で人見知りなこともあって、まだまだ話をしていない人がたくさんいる。次回参加したらもっと話をしたい。

三つ目は、同年代の友達ができたと。若手研究者で集まって会議をしたり、分科会をしたり、飯を食べたり、酒を飲んだり、一緒に狭い風呂に入ったりした。4人も友達ができたと。また来年？彼らに会えたらいいな。いろんな話をしたい。

この三つが参加してよかったこと。

最後に、JSAに関わっている皆様、このような場を作ってくれてありがとうございます。また参加したいです！

## 『日本の科学者』10月読書会 (10/19)

### 10月号特集「科学と教育の結びつき」

個人懇・清水民子

10月19日(金) 15:30~17:30, 支部事務所で開催された。参加者8名。以下の4論文が紹介され、若干の討論が加えられた。

本特集は、1945年に採択されたユネスコ憲章に謳われた、教育を客観的真理の探究とこそ結びつけるべきであるとの理念を、「教育内容の中心に科学を位置づけること(科学の教育)」、「教育方法の開発や教育政策の立案を科学的に行うこと(教育の科学)」の両面からそれぞれ検討した論文が掲載されている。

#### 1. 田中昌弥「OECDの教育政策提言における EVIDENCE-BASED 志向の問題性」 (報告: 清水民子氏)

わが国の教育政策論議にも影響した表題のOECDの提起は、医療における Evidence-based medicine (EBM) を援用して教育・福祉分野の介入効果の検討に用いられる国際

動向を生みだした。教育におけるエビデンスとして開発された学力テスト PISA の結果

(2003) は、日本の子どもの学力問題としても話題を呼んだ。しかしながら、医療におけるランダム化比較試験のような方法を教育現場でおこなうことは難しい。効果のあらわれるまでの時間的スパンの長さ、流動的環境のとらえにくさ、訓練など教師文化の影響などの問題が指摘される。とはいえ、EBMから学ぶべきことは、「市民もエビデンスを参照し、自分に関わる臨床判断に参加できる」こと、そのためには「教育実践の質を理解する文化」が必要である。

#### 2. 米山光儀「福澤諭吉の実学思想—その意義と限界」(報告: 藤井 一氏)

評者は福澤諭吉に関する年表を用意されての報告であった。福澤は「学問のすすめ」に

において、「世上に実のなき文学」（漢学）ではなく、日用に近き「実学」として、イロハ、手紙の文言に加え、地理学、究理学、歴史、経済学、修身学を学ぶことを提唱し、漢学に対抗する学問の基礎に物理を据え、その普及のための教科書づくり（「窮理図解」「世界国尽」など）を進めた。「年少にして文才ある者」に洋学を学ばせるために「慶応義塾」を創設した。これら実学を学ぶことによって、「身も独立し家も独立し天下国家も独立」しようと考えたが、後には「独立」は「公議輿論」として実現・推進を「徳教」の課題とすべきであると、儒教主義批判を展開した。福澤にとって「独立はアプリオリな課題となってしまう」、「サイヤンスとしてそれができないというアポリアに陥ってしまったのである」。

### 3. 三石初雄『原子力・エネルギー教育』の教材研究—『高リスク』社会の中で価値選択課題にどのように向きあうか』

（報告：宗川吉汪氏）

これまで学会での声にもかかわらず、放射線・原子力教育は安全神話キャンペーン（教育指導例集、副読本、NPO 法人放射線教育フォーラム）の一端を担ってきた。中学・高校の理科学習指導要領では「利用」の学習が強調され、教科書では科学的事実・法則の解説が主であった。そのなかで、「利用」を基本としながら、「安全」について記述する「両論併記」の教科書が見られ、前進を認めることができる。教科書とは別に、副読本として周知の『わくわく原子力ランド』などは文部科学省ホームページから削除されたが、再編・刊行されたものもメリット・デメリット論を取り上げた上で「ベストミックスの見解」でまとめている。リスク教育を自覚的・明示的に記述した教科書として英国の物理教科書な

どが紹介され、予防原則、ALARA (As Low As Reasonably Achievable) 原則などが明記されている。市民的科学リテラシーの育成のために、日本でどう創りかえていくかという点で、子安 潤の実践プランに注目する。

### 4. 澤田稔「科学教育のカリキュラム・ポリティクス—対立と価値判断の原子力・エネルギー教育へ」（報告：鈴木博之氏）

カリキュラム・ポリティクスとはアメリカの批判的教育研究（アップルなど）において、「カリキュラムは学校をとりまく社会がはらむ権力関係＝ポリティクスから不可分である」とする視点からの分析である。理科・社会科カリキュラムにおいては、「対立」という科学の進歩を促す要因が無視され、実証主義的科学観に偏重している。日本の原子力・エネルギー教育カリキュラムは肯定的・否定的側面の「両論併記」が特徴である。今後の課題として、学説の対立関係を学問の最先端に触れながら学習するプログラムの導入をはかること、価値判断や反省的思考の具体的なあり方を示し、最終的な判断を生徒自身に委ね、思考を続けるための道具・材料や機会を提供する（インフォームド・コンセントに比せられる）ことが提起されている。

### 討論

各論文が紹介された後、疑問や感想・意見が自由に述べられた。「執筆・掲載された意図・意義がわからない」という疑問、「一般的紹介・表面的指摘に終わっており、具体的分析が不足」という意見があった。今回は常連に加えて教育学分野からの参加により、背景事情を理解する上で貴重な助言が得られ、討論も深められた。論文の内容から広がり、時間切れとなって惜しい話題がたくさんあった。

個人懇秋の勉強会 (10/25)

## 『橋下・「維新」の会を考える』の報告

+ 最近の若者の主な情報源について

個人懇・小林芳正

10月25日(木)の個人懇 秋の勉強会では、鯨坂 真氏：橋本・「維新の会」の本質をどう見るか、および望田幸男氏：「ナチズム」とナチズムの間に立って－3つの視点から－の講演を聞き、議論が行われた。参加者は16名であった。

**鯨坂氏の講演概要**：1. 橋本府知事の3年間の実績は、イデオロギー面を隠して、改革者を装ったものだった。彼の提唱する大阪都構想は支離滅裂である；2. 維新の会の手法はポピュリズム（大衆扇動主義、大衆迎合主義）だが、橋本氏が市長になってからその本質がファシズムであることが顕在化した；3. ファシズムの定義は、1935年のコミンテルン第7回大会におけるディミトロフの定義に未だに影響されていて思想的に検討すべき余地があるが、シェリング、ショウペンハウアー、ケルケゴールを経て、すべての近代的価値（啓蒙主義、自由主義、民主主義、共和主義、人権思想など）を否定するニーチェの積極的ニヒリズムに到り、ファシズムの基盤となったと考えられる；橋本・維新の会の思想はまさにこれに一致し、経済的落ち込みからくる大阪市民の間のニヒルな気分マッチしたものである；4. ファシズムは民主主義の手続きをとって登場する。ヒットラーもワイマール憲法体制から出てきて、政権を取ってから独裁的・暴力的となった。橋本・維新の会も民主主義の手続きで登場したが、単なるポピュリズムと甘く見るのは危険である。なお鯨坂氏が詳しく述べられた橋本・維新の

会批判は、大阪革新懇のパンフレット「維新八策を読み解く」に詳しい。

**望田氏の講演概要**：ナチスの1919年の結党から、躍進期、権力掌握を経て1945年の崩壊・消滅に至る歴史と「ナチズム」を次の3つの視点から論じた：1. 「右」からの現状打破論；2. 政治におけるイメージの問題；3. 「上からの権威主義的反動」と「下からの大衆運動」の結合の問題。

橋本「維新の会」の基本姿勢は、従来の「保守」対「革新」＝「現状維持」対「変革」の図式とは違う「右」からの現状打破論である。出口の見えない不満が鬱積している現在の日本は、ナチスが台頭したドイツのワイマール共和国期に似ている。

ナチスが「独裁・戦争・暴力」の党であることは明らかだが、それはナチズムの全過程を見てからの後知恵で、当時はどう見られていたか「政治におけるイメージ」が問題である。ナチスの歴史は、1) 街頭的非合法一揆主義（1919～25）の挫折とヒットラーの投獄；2) 合法活動（1926～30）反ユダヤ主義・反資本主義を主張して議会第2党に躍進；3) ナチ・保守連合で第1党（1930～33）；4) 独裁と再軍備、一党独裁（1933～39）；5) 戦争、アウシュヴィッツ（1939～45）に分けられる。このように、ナチスは歴史段階により変容してきており、初期から第2期は反体制的で国民の人気を博し、第3段階で反共を軸に保守との連合内閣を実現した。橋本「維新」の会についても、政治思想の本質の論議だけ

でなく、多くの市民がどのようなイメージを抱いているかに注意すべきだ。

「上からの権威主義的反動」と「下からの大衆運動」の視点から見ると、ナチズムは、国民社会主義ドイツ労働者党という名称からわかるように、ナショナリズムと社会主義の結合から出発した。労働者党というのも勤労大衆へのアピールを狙っている。党員数は1925年にはわずかに数100名だったが、議会第2党に躍進した1926年には4万9000、第一党になった32年には100万を突破し、党員の70%が40歳以下だった。一方、橋本「維新の会」は確たる大衆的基盤を持たず、あれこれの政治勢力との連携を模索しているところがナチズムと違っている。

この勉強会よりも前、筆者は京都支部ニュース10月号に『日本の科学者』読書会9月例会の報告をした。それをある理工系私立大学に勤める友人に見せたところ、次のような資料をもらい、公表の了承を得た：

「先週、1年生の授業で米国新聞の廃刊危機に関する2年前の「クローズアップ現代」を見せて、簡単な感想文を書いてもらいまし

た。新聞の電子化を時代の流れとする一般的意見と、紙が無くなると寂しいという少数意見がありました。しかし、よく言われるようにほとんどは新聞を読んでいません。新聞の体制批判機能について触れた者は1名だけでした。

簡単な質問に答えてもらいました。出席59名で55名が回答しました。

- ・ほぼ毎日新聞を読む：6名 10.9%
  - ・ほぼ毎日TVを観る：33名 60.0%
  - ・ほぼ毎日ネットを使う：51名 92.7%
- 現状をかなり反映していると思います。」

この資料は、筆者が読書会報告で「この頃の若者には、新聞などよりもネット情報の影響の方が大きいだろう」と述べたことを裏付けている。今回の勉強会で、小泉元首相や橋下大阪市長のような「劇場型」政治家の影響力に対してどう対処したらよいか議論があった。筆者は、上記の資料を紹介し、一般市民に訴えるのにネットの活用も考えるべきではないかという考えを述べた。この問題は勉強会の「主題」というわけではないが、望田氏の「政治におけるイメージの問題」に関連があると思ったので付け加えた。

## 第10回『日本の科学者』(JJS) 近畿地区サポーター会議の報告

日時：2012年10月28日(日)

13時30分～16時30分

場所：京都支部会議室

出席：小森田(大阪)、島影(大阪)、長野(大阪)、尼川(兵庫)、宗川(京都)

出席者の近況報告の後、前回議事録を確認し、JJS編集委員会へ投稿、掲載記事の推薦、提案等について討議。

JJS10月号と11月号についての講評では、ミスプリの指摘や、10月号三石論文(原子

力・エネルギー教育の教材)に関連して小中高の副読本の批判など。11月号兵藤論文(科学技術政策)にあるBRICsとか“シーズ”など門外漢を寄せ付けない用語。安場論文は東京では評判が良かったが、専門家にはとっては問題あり、などの意見。

次回の会議は12月16日(日)

13:30～16:30 @京都支部会議室を予定  
(文責 宗川吉注)

## 関西技術者研究者懇談会 11 月例会 (11/4) の報告 自然エネルギー (再生可能エネルギー) への転換について

中村郁夫氏

日時: 2012 年 11 月 4 日(日) 14 時~17 時

場所: JSA 大阪事務所

参加者: 5 名

### 講演内容

- ・福島原発事故から 1 年 8 ヶ月, 日本科学者会議は「現代の原発は致命的な欠陥をもつ技術であり, その使用を断念すべきである」という提言をしている。
- ・96%のエネルギーを海外に頼る日本には, 豊富な自然エネルギーがあり, その活用へと大きく方向転換すべきである。
- ・自然エネルギーは化石燃料エネルギーを代替するのに十分なポテンシャルがあり, 地球温暖化防止の背景から, 適切な政策による産業育成と技術開発への投資が行われれば, きわめて大きな市場が生まれるとともに, 多くの新しい企業の成長が期待される。
- ・また自然エネルギー産業は, 既存の化石燃料エネルギー産業が単一・集中型産業であるのに対して, 多様・分散型産業という特徴を持つことから, 地域雇用の創出を含め多様な雇用を生むことができる。(自然エネルギー白書 2012 より)
- ・例えばバイオマスエネルギーの場合, 農林水産業などの一次産業系資源は, 地域広範

圏に分散して存在し, かつその形態が多様であるために一つの大きな産業として発展しづらい。

- ・また元資源を加工・処理・運送する必要があり, 太陽・風・地熱などに比べてエネルギー資源としては手間がかかり, 資源コストという面では不利になる。ただ多くの地域にまんべんなく資源が存在することから, 工夫次第では小規模ながらも地域の活性化, 雇用の創出に貢献できる。
- ・小水力発電についてもバイオマスエネルギーと同様のことが言える。

### 討論

- ★太陽電池では日本の企業が先行していたが, 2010 年の生産量では世界のトップ 5 の内 4 社が中国製である。
- ★風力発電装置は日本の環境に合ったものを開発すべきだ。
- ★地熱発電は火山国日本に適合した方法であり今後が期待される。
- ★国内のリストラなどで退職した技術者によって技術の海外流出が行われている。

### これからの日程

12 月 2 日 (日) 河南町の小水力発電

山本謙治氏

(文責・山口進次)

読書会・フォーラム・研究会の案内 (末尾の「JSA 近畿」も参照)

『日本の科学者』読書会 11 月例会「大学改革」

日時: 11 月 16 日 (金) 15:30~17:30

場所：京都支部事務所

テーマ：11月号特集「新局面を迎える『大学改革』」政策

- ・富田道男氏：斎藤論文「科学・技術政策と高等教育政策」
- ・宗川吉汪氏：①中嶋論文「国立大学法人における大学自治の復興」  
②佐藤論文「国立大学法人化の財政問題」
- ・清水民子氏：森論文「大阪府立大学をめぐる大学改革の現状」

### 11.24 科学・技術京都フォーラム「原発そして尖閣」

11.24「科学・技術京都フォーラム」を以下の要領で京都工芸繊維大学にて開催します。お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

日時：2012年11月24日（土）13：00～17：00

会場：京都工芸繊維大学 総合研究棟4階 多目的室

（地下鉄・烏丸線「松ヶ崎駅」下車（1番出口） 東へ徒歩10分）

アクセスマップ：[http://www.kit.ac.jp/01/01\\_110000.html](http://www.kit.ac.jp/01/01_110000.html)

参加費：セミナー 無料，懇親会 2000円

セミナー：「原発そして尖閣」

13:00～13:15 開会挨拶 宗川吉汪氏（京都支部事務局長）

13:15～14:00 「原発事故の原因といま」政宗貞男氏（京工繊大）

14:00～14:45 「原発事故の被害とこれから」前田耕治氏（京工繊大）

（休憩）

14:55～15:55 「尖閣問題の平和的解決のため」大西 広氏（慶応大）

15:55～17:00 自由討論

17:00～18:30 懇親会（生協食堂）

申込：準備の都合上、11月19日（月）までに、「科学・技術京都フォーラム参加申込」と表題に明記して、[maedak@kit.ac.jp](mailto:maedak@kit.ac.jp)（前田宛）までメールでセミナー・懇親会の参加の有無をお知らせください。

### 関西技術者研究者懇談会12月例会「小水力発電」

日時：12月2日（日）14:00～17:00

場所：JSA 大阪事務所

テーマ：「河南町の小水力発電」

講師：山本謙治氏

### 学校統廃合と小中一貫校問題を考える第3回全国交流集会 in 京都

日時：12月9日（日）10：30～16：00

場所：京都華頂大学

全体会 10:30~12:30

開会あいさつ／基調提案

実践報告：山本由美氏（和光大学教授）

分科会 13:30~16:00

分科会Ⅰ 学校統廃合：佐貫 浩氏（法政大学教授）

分科会Ⅱ 教育課程：梅原利夫氏（和光大学教授）

分科会Ⅲ 子どもの発達：都筑 学氏（中央大学教授）

分科会Ⅳ まちづくり：室崎生子氏（元平安女学院大学教授）

主催：第3回全国交流集会実行委員会

## 「人体の不思議展」は何だったか～私たちが明らかにしたこと

日時：12月22日（土）14:00~16:30

司会：西山勝夫氏（滋賀医科大学名誉教授）

・出版記念講演：末永恵子氏（福島県立医科大学講師）

『死体は見世物か～「人体の不思議展」をめぐる』（大月書店）

・「人体の不思議展」開催中止運動の取り組みについて

小笠原伸児氏（弁護士・京都法律事務所）：これまでの経過と到達点

宗川吉汪氏（京都工繊大名誉教授）：損害賠償請求事件（民事訴訟）を通じて

垣田さち子氏（京都府保険医協会副理事長）：京都府保険医協会の取り組み

斉藤典才氏（石川県保険医協会理事）：石川県保険医協会の取り組み

場所：京都府保険医協会 会議室

（中京区烏丸通蛸薬師上ル七観音町637 第41長栄カーニブレイス四条烏丸6階）

主催：「人体の不思議展」を考える京都ネットワーク

問合せ先：京都府保険医協会 担当：二橋（フカビ） ☎075-212-8877

## 京都支部の新研究会「社会体制研究会」へのご案内

日時：12月22日（土）14:00~17:30

会場：京都市東山いきいき市民活動センター 第1会議室

（アクセスマップ：<http://bit.ly/iLr6IZ>）

報告：「現代資本主義と新福祉国家構想」神戸大学名誉教授・二宮厚美氏

懇親会：研究会の終了後、三条京阪駅の近辺で2時間程度

参考文献：

・二宮厚美『憲法25条+9条の新福祉国家』かもがわ出版（2005年）

・同 『新自由主義からの脱出』新日本出版社（2012年）特に第5章

・渡辺・二宮・岡田・後藤『新自由主義か新福祉国家か』旬報社（2009年）

- ・福祉国家と基本法研究会・井上秀夫・後藤道夫・渡辺治編『新たな福祉国家を展望する』旬報社（2011年）  
（上記研究会の代表は田中雄三さん）

## 投稿：住民参加のまちづくりとは（1）

—東大路通り整備構想策定のプロセスにみる— 個人懇・藤本文朗

### はじめに（何が問題か）

東大路通り、とりわけ東山4条～5条間は、世界遺産の清水寺があり、年間1,000万人の観光客が訪れるだけでなく、京都大学や京都大学医学部附属病院への通路であり、東山警察署や東山消防署があり、緊急出動の重要な幹線道路である。またこの道路に面している地元業者などの生活道路でもある。

この東山通りが古くから交通混雑をきたし、観光シーズンでは渋滞で大変であり、これをなくすよう、地元から要望が出されていて、市の方でも「歩いて楽しい東大路」の取組みを2010年（平成22年）からおこない、地元との話し合いをしてきた。

2012年（平成24年）、地元代表（主として、東山区市政協力委員、交通関係者、4人の学識経験者など、計約40人）からなる「東大路歩行者空間創出推進会議」が発足。シンポジウム、パブリックコメントなどをおこない、8月3日、推進会議で「地元東山区民の8割の方々は、車線減少を含めた歩道の拡幅の検討を開始する、を認めてもらった……今後は東大路通り整備構想を策定し、測量調査、そして予備調査を行っていく」と議長が提案、異議なし、と認められた。そして9月の議会で1,400万円の予算が認められ、測量が今年度中にすすめられることになった。

ところが、京都新聞の10月15日の朝刊に、地元から車線減に反対の声があり、9月3日、

13日、各50人があつまり、市の「歩くまち京都推進室」課長などをよんで、説明を求めたが、了解にほど遠く、もともと地元から「車線減少の要望は文書として出ていない」との声が出され、白紙に戻してほしいとの声が出ている、との記事が載った。

私は、M氏（東山道りに面した地元業者）から、この問題の協力を求められ、推進会議の学識経験者にTel、FAXなどでご意見を聞き、1,600のパブリックコメントを読み、他の地元の人々とも話しあった。10月16日には市の「歩くまち京都の推進室」と交渉して、いろいろ学ぶなかで、門川大作京都市政が、地元の要望と言いつつ、「推進会議」やパブリックコメントをたくみに利用して住民自治を軽くしている姿に疑いをもち始めた。

私は東山区に住むJSA会員の一人である。これまで、東山区の歴史について住民とともに「京都・東山の福祉の源流をさぐる」（2009年、宮帯出版）、「これでいいのか小中一貫校」（2010年、新日本出版）を出版して、東山から全国に東山の住民の力を発信してきた。この住民の力を信じ、東大路通り整備問題を科学者として解明してみたいと思い、この1ヵ月毎日東大路を歩き、77歳の老害といわれつつ住民と話してきた。会員のご批判をいただきたく本稿を第1回の投稿としたい。“まちづくりは人づくりでもある”住民の知恵を出し学び合おう。

次回(2)では、①地元の「ニーズ」とは何か(ニーズ論)、②パブリックコメントとは、③私たち住民の解決策—「JR 東大路駅」はひとつの解決、などを論じたい。

**追記:** 全体についてはすでに2012年9月の国際文化政策研究教育学会でのセミナーで発表してご批判いただいた。

文献

① 藤本他編著「障害者に住みよいまちを」(1981) 全障研出版

② 同上「京都障害者歴史散歩」(1991) 文理閣

③ 同上「障害者の発達と環境」(1982) 青木書店

(筆者は、東山区住民で、JSA 高齢者障害者権利保障研究委員会代表)

## ※※※※※※支部幹事会だより※※※※※※

第6回幹事会(10月19日)、第6回事務局会議(10月5日)の報告です。

### 1. 支部現況

会員数 282 (一般251, 学生・院生31), 読者 6 (前月より1減)

### 2. 会費納入状況

2012年度会費納入率は10月31日時点で64.9%. 前年同時期は57.7%.

### 3. 機関誌送付の停止について

読者の小田滋晃さんは2008年8月~2012年11月まで会誌費未納により12月号より送付を停止することにした。この間の会誌費(600円×55ヵ月=33,000円)を請求した。

### 4. 原発ゼロに向けた運動

- ・大飯原発差し止め訴訟について協力声明をだすことにした。
- ・バイバイ原発きょうと3.9実行委員会に参加し、賛同金2,000円を出すことにした。

### 5. 諸団体へのカンパ

- ・石川支部の富来川南岸断層ボーリング調査に5,000円

- ・「人体の不思議展」を考える京都ネットワークの民事訴訟費用等に1万円

### 6. 会員名簿の作成について

全国幹事会で、会員の交流を図り、活動活性化のために全国事務局に名簿を集中させることが提案された。公開可能の会員の名簿を作成することとし、5月の支部大会に向けて準備することにした。

### 7. 会員および読者の拡大について

会員および読者対象者を思い切って拡大することにした。

### 8. 第47回支部大会について

2013年5月19日(日)に開催される支部大会は、全会員参加となり、幹事は立候補制になる。大会の持ち方(特別講演、シンポジウム、討論会など)について議論した。準備日程を以下の通りとした。

1月18日(金) 幹事会で議案書作成準備を開始

2月8日(金)事務局会議, 2月22日(金)  
幹事会で議案書の討論  
3月8日(金)事務局会議で議案書素  
案作成を開始  
3月22日(金)幹事会で議案書原案を  
決定  
4月5日(金)事務局会議で議案書原  
稿を完成

4月11日(木)支部ニュースに合わせ  
て議案書, 幹事の立候補案内,  
委任状の発送  
5月11日(土)に委任状等を回収

(文責 宗川吉汪)

## 19 総学で池内 了氏の講演を聞いて(再掲)

宗川吉汪

(10月号で掲載した本論文に編集の不手際から文章の重なりが発生したが, それに気づかず印刷・発送してしまった。読者のみなさんには大変ご迷惑をおかけした。心からおわび申し上げる。ここに再録した。京都支部事務局)

(再録にあたり注をあらたに付け加えました。合わせてお読みください。筆者)

日本科学者会議第19回総合学術集会(岡山, 2012年9月)の池内氏の基調講演「持続可能な社会への変革をともに」を聞いた。科学者の社会的責任について述べられたが, 現実離れした見解のように思えた。予稿集の講演要旨(p.30~32)に則して批判したい。

批判点は二つある。一つは科学者の位置づけであり, もう一つは科学の価値についてである。

はじめに科学者の位置づけについて。池内氏は予稿集で「科学者は傲慢になり, (中略)科学・技術を抜きにして社会は成り立たないと思ひ込み, 自らが社会の主人公であるかのように振る舞い, 一種の大衆蔑視の意識をもってしまったのだ」と書く。しかし, 科学者の多くが今さら傲慢になったのではなく, もともと傲慢になるように養成された者たちである。科学者は階層として現体制の権力の一部を構成する<sup>(註1)</sup>。そのことを認識しないと皮相な科学者論になる。

池内氏は「科学者の役割は何であろうか」

と問うて, 「社会のリーダーではなく, 科学の知識を活かした社会のアドバイザーで」なければならない, と答える。リーダー(権力者)として養成された科学者に社会のアドバイザーが期待できるだろうか。

池内氏は「科学と社会がいかなる関係にあるべきかを常に考える, 科学倫理を弁えた科学者の養成が求められている」としているが, そのような科学者を養成する場を現在の日本社会の何処に求めたらよいのだろうか。今の大学には期待できそうにない。池内氏が, 科学者会議こそその役割を担うべきだ, というのなら, 大いに賛意を表明する。実際, 科学者会議の会員は, 社会の助言者であり, かつ現体制に対する批判者でなければならない。それこそが科学者としての会員の倫理である。

つぎに, 科学の価値について。池内氏は「科学は, コインの裏表と同じく, 人間の幸福に役立つ側面と厄災をもたらす側面の両面がある」として, 科学の価値中立説に立つ<sup>(註2)</sup>。そして「原発を採用するかどうかは, 社会に

プラスの側面もマイナスの側面も対等に示され、市民が選択してゆくべき問題であった。それを抜きにして科学者はプラス面だけを強調してきた」と言う<sup>(注3)</sup>。

このような見方はあまりに楽観的な見方ではないか。そもそも、中曽根や正力が原発導入を決意したとき、市民に原発の利害得失を対等に示し、市民に選択する余地を与えるはずがない。安全神話を振りまいて市民をだましてきたのは現体制の一部である原子力ムラの科学者だったのは今や皆が知っている。

科学は科学者の営為の成果である。科学者が今の体制の側にいる限り、科学はその権力的手中にある。ここでも科学の価値は中立でなくなる。ブレヒトは戯曲『ガリレイの生涯』（岩淵達治訳、岩波文庫、1979）の中でガリレイに「科学の唯一の目的は、人間の生活条件の辛さを軽くすることにある」と言わしめた。ブレヒトの理想を実現するためには、科学者は国民大衆人民百姓の側にいなければならない。

**(注 1)** 戸坂潤は科学や科学者の位置づけについて次のように述べた。「元来、科学（一般に文化も亦）は決して人類全般、社会全般のものではなくて、或る特定の而も支配的な社会階級乃至社会身分の、占有物だったので

ある。」「科学の所有者・占有者はこの『科学者』自身ではなくて、彼らの主人達なのである。」<戸坂潤集（筑摩書房、1976）『科学論』p.143>

**(注 2)** 見田石介は科学の価値中立説に対して次のように批判した。「もっとも客観的なもっとも深い事実判断は、つねに価値判断なのである。新カント派が事実判断と価値判断とを区別するのは、かれらが事実ということをただ直接的な事実としてしか知らないからである。（中略）当然の結果として、価値判断も主観的、相対的なものしか知らないことになる。同時に価値判断であるような客観的な概念の判断、これが真に実践の指針たりうる認識であり、また科学の目的である。」<見田石介著作集第二巻（大月書店、1976）『I 科学論』p.156>

**(注 3)** 原発が複雑な機械装置である限り事故は避けられない。とりわけ地震や津波に対して脆弱である。あわせて使用済み核燃料の安全処理は極めて困難である。さらに放射線被ばくによって長期にわたって健康が損なわれる。これらは「科学的事実」である。湯川秀樹は核兵器を“絶対悪”と言ったが、筆者は原発を“絶対危険”と主張した。<宗川吉汪「科学者の社会的責任」『日本の科学者』2012年1月号 p.48>

#### <編集後記>

- ・個人懇秋の勉強会で、橋下「維新の会」の本質がファシズムに通ずることや組織的な弱点を知ったが、石原登場で第三極の政策抜きの野合の動きが活発化している。「右からの現状打破」「政治におけるイメージの問題」に注意して本質暴露の活動が重要となっており、JSAの活動が期待されている。
- ・支部のメールアドレスが表紙のように変更されています。ご注意願います。
- ・最近の支部ニュースの編集ミスを自戒したい。編集者の高齢化も一因であろうか？ 若手の積極的なサポートを期待したい。 (編集者・鈴木博之)

JSA の関連する近畿地区の催し(京都支部主催は除く)

○国際シンポジウム「戦争と医の倫理」  
—ドイツと日本の検証史の比較—(無料)  
日時:11月17日(土) 15:00~18:00  
会場:京都大学百周年時計台記念館 百周年  
記念ホール  
パネリスト:Till Bastian(ドイツ)・刈田啓  
史郎(元東北大学教授)  
座長:小島荘明(東京大学名誉教授)・川嶋  
みどり(日本赤十字看護大学名誉教授)  
総合司会(連絡先):西山 勝夫  
katsunishi@aol.com

○パネル展示「戦争と医の倫理」:日本の医  
学者・医師の「15年戦争」への加担と責任  
日時:11月16日~21日(無料)  
会場:京都大学百周年時計台記念館 国際交  
流ホール  
連絡先:西山 勝夫

○大阪支部・哲学研究会 11月例会  
日時:11月19日(月) 18:30~  
場所:JSA 大阪事務所  
テーマ:日本の利用可能風力エネルギー  
報告者:河野仁(県立兵庫大学環境人間学部)

○大阪支部・現代資本論研究会  
日時:11月22日(木) 18:30~  
場所:大阪支部事務所  
テーマ:「ロシア極東ビジネス最新事情」  
講師:安木 進一郎(大阪国際大学)

○ヘーゲル研究会  
日時:12月1日(土) 14:00~  
場所:桃山学院大学 大阪本町オフィス  
(tel:06-6268-7358)  
内容:ヘーゲル『精神現象学』「A 意識」  
参考文献:平凡社ライブラリー版『精神現象  
学(上)』榎山欽四郎訳

報告者:牧野広義

○第19回化学物質と労働者の健康研究会  
日時:12月1日(土曜日) 13:30~17:00  
テーマ:化学物質による職業がんをなくす  
ために—印刷職場の胆管がん問題から考  
える  
内容:  
講演(1)「印刷職場に発生した胆管がんに  
ついて」:熊谷信二氏(産業医科大准教授)  
講演(2)「わが国の発がん物質の管理の現  
状と問題点」丹羽 弘氏(全労働大阪基準  
支部執行委員長)  
職場からの報告・討論  
場所:エル・おおさか  
(大阪府立労働センター)・視聴覚室  
参加費:1,000円  
連絡先:大阪労働安全健康センター  
(Tel:06-6353-2252)

○第4回動物園前サイエンスカフェ  
「イカとタコの暮らしぶり」  
12月15日(土) 14:00~16:00  
動物園前1番街アーケード(新世界ジャン  
ジャン横丁から南へ1分,地下鉄動物園  
前2番出口すぐ)  
話題提供:古屋秀隆さん(大阪大学)

○第55回 北天満サイエンスカフェ  
「こども面白サイエンスカフェ10」  
2012年12月22日(土) 14:00~16:00  
場所:天五中崎通商店街 黒崎東商店会  
Art & Science Cafe 付近  
演示・指導:理科の先生のみなさん